



【本号のトピックス】

厚労省老人保健健康増進等事業に本会から2事業が許可される／ 栄養ケアマネジメント研修会案内／支部活動たより

厚生労働省老人保健健康増進等事業の紹介

本学会から厚生労働省平成24年度老人保健健康増進等事業に事業申請した結果、2事業の事業実施の許可を受けました。本事業は、高齢者の介護、介護予防、生活支援、老人保健および健康増進等に関わる先駆的、試行的な事業等に対し助成を行い、老人保健福祉サービスの一層の充実や介護保険制度の適正な運営に資することを目的とする事業です。今回採択された2事業に関してその概要をご報告します。

介護保険施設における効果的な口腔機能維持管理のあり方に関する調査研究事業

(担当者：菊谷 武)

1. 事業目的

本年度の介護保険改定において新たに実施されることになった口腔機能維持管理加算について、介護保険施設の入所者に対する当加算の実施状況を把握し、さらに実施上の課題の抽出等を行うことでより効果的なサービス提供のあり方を検証する。さらに経口維持加算推進のために歯科が係わった場合の効果検証の実施と普及法を探る。

2. 事業内容

【背景】

本年度の介護報酬改定によって新たな枠組みとなった口腔機能維持管理加算は、歯科衛生士の直接的な介入が求められている。これまでのところ介護保険施設に歯科衛生士が雇用されている施設はさほど多くなく、今回の口腔維持管理加算がどの程度運用されるかは現状では不明なところも多い。そこで、今回の改正により口腔機能維持管理加算の普及度、問題点など

を明らかにする必要がある。さらに、歯科医療との効果的で効率的な連携体制を検討しておくことは、今後の歯科医療介護連携を構築していくうえでも重要と思われる。

また、本年度の介護保険改正に伴い、栄養ケアマネジメントにおける経口維持加算への歯科医師の関与が謳われている。当加算の実施状況を把握し、さらに実施上の課題の抽出等を行うことでより効果的なサービス提供のあり方を検証することは重要である。

【事業概要】

事業1：介護保険3施設において無作為抽出による質問紙調査を実施し、歯科衛生士の雇用状況を明らかにし、また、サービス提供に当たっての協力歯科医療機関、他職種および介護職員等との連携状況についても調査する。さらに、口腔機能維持管理加算導入に伴う施設入所者の満足度、介護職員の口腔ケアに対する意識の変化等について従前の口腔機能維持管理加算導入時と比較して検討を行う。

事業2：口腔機能維持管理加算にともなう、歯科医師、歯科衛生士の介入が誤嚥性肺炎発症等の予防にどのような影響を及ぼすかを検討する。

事業3：歯科医療との効率的な連携を検討するために、義歯治療、摂食指導など歯科的介入症例を集積し、栄養状態の変化、肺炎発症状況を把握することで、歯科医師が経口維持加算や口腔機能維持管理加算に積極的に関与すべきガイドラインを作成する。

事業4：経口維持加算推進のために栄養ケアマネジメントに係わる歯科医療者向けの研修会を実施する。

本事業の事業金額は1,750万円である。



挨拶を述べる森戸理事長

終末期高齢者に対する歯科医療およびマネジメントニーズに関する調査研究（担当者：平野浩彦）

1. 事業目的

経口摂取を通じた終末期高齢者の QOL の向上を目標とした歯科的マネジメントニーズを調査検討し、効果的かつ苦痛緩和に配慮した口腔管理素案を提案するための基礎的データの蓄積を行う。

2. 事業内容

【背景】日本老年医学会では 2012 年 1 月、「高齢者の終末期の医療及びケア」に関する立場表明が改訂され、終末期高齢者医療における医療・ケアの提供に関し倫理的検討のうえ指針を打ち出す流れとなっている。また非がん疾患における終末期、特に認知症の重篤化に伴って生じる摂食・嚥下障害に関しては、「食べられなくなった」際の人工栄養適応についての議論が緒についたところである。平成 24 年診療報酬改定において、訪問診療や居宅療養管理指導、また介護報酬改定においても口腔・栄養サービスが重要視されるなど、終末期高齢者を含む高齢者のライフステージや ADL を意識した経口摂取マネジメントが求められている。一方終末期高齢者の医療の受給に関する意思決定については、多くの倫理的・経済的・社会的課題が含まれている。個々の終末期高齢者の死生観、価値観および思想・信条・信仰を十分に尊重して望ましい終末期医療およびケアについて、さまざまな困難に直面する現場での意思決定を支援することは今後の重要課題である。

特に終末期高齢者の経口摂取の問題は、悪化すれば生命予後を左右する栄養状態に直結することから重要な課題であるが、摂食・嚥下機能に大きく関わる口腔機能・口腔衛生の課題の把握は不十分である。終末期高齢者では栄養摂取や感染予防に対し効果的、かつ患者や家族の苦痛を緩和することが重要であり、積極的な歯科治療介入が必要なステージから口腔衛生管理介入が優先であるステージなど症例によってさまざまであり、これまで方向付けがなされないままであった。終末期高齢



会議風景

者では患者自身の理解力や判断力が不十分であることが多く、また患者家族にとっても最善の終末期の口腔管理をイメージしにくいことから、歯科治療の内容は医療者の提案に任せられている現状がある。

これら一連の問題の大きな原因の一つとして、一般的な外来歯科治療受診が困難である終末期高齢者の歯科医療ニーズおよびマネジメントニーズの実態把握がなされておらず、実態に基づく支援方法の確立がなされていないことに端を発していると考えられる。そこで本事業では現状での課題の把握を目的として、実態調査を行う。

【調査概要】対象と方法：終末期高齢者への医療・介護に関わる専門職（日本老年歯科医学会認定医、歯科衛生士、日本老年医学会専門医、老年看護専門看護師（予定））に質問紙調査を行う。終末期高齢者に関する日本老年医学会の立場表明に関する意見に基づいた歯科医療・マネジメント提供者の立場からの素案の提案を検討する。

内容：①終末期高齢者の歯科医療・マネジメントニーズの実態、②歯科医療・マネジメントの実態と効果、③終末期高齢者の QOL を踏まえた倫理的検討、以上の項目について専門職の立場からの経験に基づいた具体的な現状および他職種専門職チームの中での歯科医療従事者の立場を調査検討する。

【結果解析法など】得られた質問紙調査結果に関し、自由記載に対しては定性的分析を行い、コード化して比較検討する。また終末期高齢者のニーズに対する歯科医療・マネジメントを実際に行った経験をもとに、多職種専門職チームにおける歯科医療・マネジメントの提案および方針決定要因を抽出する。終末期高齢者に対する「食」を通じた QOL 向上のためにどのような具体的な歯科医療・マネジメント等の支援が必要となるか意見を基に検討する。以上を基に終末期高齢者に対しての効果的かつ苦痛を緩和する口腔管理素案を提案する。また得られた結果に関して報告会（次年度日本老年歯科医学会総会：予定）を行う。

本事業の事業金額は 450 万円である。

歯科医師のための栄養ケアマネジメント研修会

【夜2回コース】

- ①平成24年12月13日(木)18:00～21:00
 (1)「施設入居高齢者の口腔内状況と栄養状態との関連」
 (社)日本老年歯科医学会理事長 森戸光彦
- (2)「経口維持加算における歯科と栄養との協同①」
 鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座 菅 武雄
- ②平成24年12月20日(木)18:00～21:00
 (3)「施設入居高齢者への栄養アセスメントとケアプラン」
 (社)日本栄養士会全国福祉栄養士協議会
 社会福祉法人新世会特別養護老人ホームいくり苑那珂 政安静子
- (4)「経口維持加算における歯科と栄養との協同②」

日本歯科大学大学院生命歯学研究科
 日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 菊谷 武

会場(予定): 日本歯科大学生命歯学部本館
 8階富士見ホール

【休日1回コース】

平成25年1月27日(日)
 会場は未定(都内)

<問い合わせ先・ご送付先>
 歯科医師のための栄養マネジメント研修会事務局
 〒151-0061 東京都渋谷区初台1-49-1
 第30田中ビル7階
 (株)医療産業研究所担当: 杉山
 TEL:03-5351-3511 FAX:03-5351-3513
 E-mail:sugiyama@hmijp.com

支部活動たより

支部組織・地域保健医療福祉検討委員会

富士ブロック共催セミナー

日時: 平成24年10月20日(土)
 13:00～17:00(予定)
 場所: 三島市民文化会館小ホール
 テーマ内容:
 「口を通して見えてくる医療と福祉の近未来」
 -地域の中のつながりを築く-
 講演内容:
 糟谷政治(浜松糟谷歯科医院根上がり松診療所)
 「最後まで口から食べるために、歯科医師も患者さんも何を行っていったらいいか」
 花形哲夫(山梨県歯科医師会)
 「山梨県における訪問歯科診療に関わる多職種連携の構築と実践について」
 松月みどり(公益社団法人日本看護協会)
 「看護師からみた、多職種連携の課題と近未来(仮題)」

事務局: 栗原歯科医院 栗原由紀夫
 〒411-0858 三島市中央町1-31
 Tel&Fax: 055-975-1078

参加費: 無料
 開催者: 主催: 口腔ケアネットワーク(三島)

東京支部主催セミナー

テーマ内容:
 在宅療養支援歯科医療を実践するためのシリーズ研修(各論)

日程
 第1回: 10月21日(日) 森戸光彦
 「高齢患者の有する問題点と対応」
 第2回: 11月18日(日) 菅 武雄
 「在宅医療と在宅歯科医療【総論】」
 第3回: 12月2日(日) 菅 武雄
 「在宅歯科医療【各論1】診療分野」
 「在宅歯科医療【各論2】ケア分野」
 第4回: 12月16日(日) 戸原 玄
 「在宅歯科医療【各論3】リハビリテーション分野」

場所: お茶の水女子大学共通講義棟2号館201講義室
 お問い合わせ: 特定非営利活動法人
 歯科医療情報推進機構
 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-6 NREG
 本郷三丁目ビル7F
 TEL: 03-5842-5540
 FAX: 03-5842-5541
 URL: <http://www.identali.or.jp>

ヨーロッパ老年歯科医学会にて本学会会員が 最優秀ポスター賞受賞

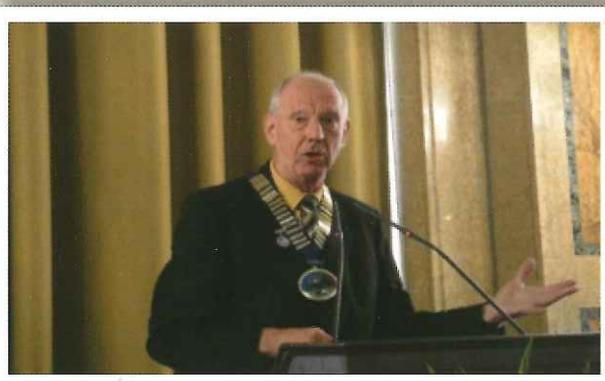
ヨーロッパ老年歯科医学会 (European College of Gerodontology) 2012 年度学術大会が、ヨーロッパ補綴歯科学会 (European Prosthodontic Association) 第 36 回学術大会との共催で、2012 年 9 月 6 日から 8 日までオランダ・ロッテルダムにて開催されました。大会長は両学会の現会長である Cees de Baat 教授でした。ロッテルダムはオランダで 2 番目の人口を有する都市で、第 2 次世界大戦において徹底的な破壊を受けたため、歴史的な街並みのアムステルダムとは対照的に近代的な建築が立ち並ぶ港湾都市です。大会期間中にロッテルダム港で世界最大級のポートフェスタが開催されていたため、街が活気と人であふれていました。

今回の学術大会は、大会テーマである “Be prepared for your patient” のもと、Dr. Nico Creugers による Oxford lecture “On dental status and oral function” の他、10 名の招待演者による基調講演、34 題の口演発表および 104 題のポスター発表が行われ、本会からの参加者や発表者も多く見受けられました。

その中から、本学会会員で東京歯科大学の山田裕介が最優秀ポスター賞を受賞しましたので報告いたします。受賞演題は「Staphylococcal attachment reduces on UVC-irradiated titanium by changing surface properties」でした。チタン表面への短波長領域の紫外線照射は、「光機能化」と呼ばれ、あらゆる表面チタンインプラントの骨結合能を著明に向上させる技術として注目されています。本研究は、チタン表面

に短波長領域の紫外線を照射することで、創感染原因菌である黄色ブドウ球菌の初期付着抑制効果を示したものです。

(東京歯科大学 上田貴之)



ロッテルダム市庁舎にて行われた
ウェルカムレセプションで挨拶をする de Baat 大会長



Gala Dinner にて大会長から表彰を受ける演者と共同演者。
(右より) 櫻井 薫, 山田裕介, Cees de Baat 大会長,
山田将博, 上田貴之 (いずれも東京歯科大学)

編集後記

これまで川良美佐雄委員長の下、老年歯科医学に関する新鮮な情報をニュースレターから発信されてきました。本号は、私が広報・研修委員会の責任者となって初めてのニュースレターとなりました。これまでのニュースレターの趣旨を踏まえつつ、会員の皆様方へ新鮮かつ身近な情報も含めて発信していきたいと思っております。本号では、これまでなかなか紙面上紹介する機会が無かった、本学会から申請し採択された厚生省老人保健健康推進等事業概要をトピックスとして掲載致しました。また、制度改正に伴い知っておきたい情報を得る目的での研修会情報、さらに活発になって参りました本学会支部組織の活動報告も併せて取り上げさせていただきました。

寄せられましたご意見を取り入れながら、本ニュースレターが会員の皆様方への有用な情報源の一つとなりますように尽力して参ります。

(平野浩彦)



発行人 森戸 光彦
編集 日本老年歯科医学会広報・研修委員会
事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込 1-43-9
駒込 TSビル 401 (一財)口腔保健協会内
電話 03-3947-8891 ファックス 03-3947-8341